

編集後記

〃機関誌がほしい〃—というのは、わが国文学専攻創設以来の念願であった。しかし、諸般の事情、とくに経済的事情のために、早急な実現を得ず、わずかに学生中心の研究機関誌を発行してきただけであった。

ところが、われわれの専攻もすでに十年の歴史を経、ようやくその願いを達成する 때가 きた。昭和四十年秋、従来の国文学会（教員、在学生による）を改組し、教員および学部・大学院の卒業生、在学生を一九とする国文学会を結成し、その事業の一つとして生み出し得たのが、この「同志社国文学」である。

創刊号を飾る研究論文は、わが教室の教員四篇、大学院卒業生一篇、学部卒業生一篇、計六篇である。そのうち、学部卒業生谷山悦子さんののは、四十年度の卒業論文で、本来詳細な補注篇の附いたものであったが、紙幅の関係から、補注篇をすべて割愛したことは、筆者に対して不本意のこととなったのを、わびておきたい。また安永教授の論文は、やはり量の関係から、今後かなり長期にわたって連載の予定である。ご期待を乞う。

この機関誌は、もとより、みずから語るためのものではない。が、しかし、現代の人間の課題との対決において、みずからの内面からほとばしり出る声をも聞きたい。古来のすぐれた文学遺産は、それぞれの時代において、そういうものであったし、それを掘りかえし、今日の主体に対応させることによって、日本の文学遺産は、今日の創造につながっていくだろう。

ともあれ、「同志社国文学」は、いま産声をあげたわけで、これをどのように育ててゆくかは、われわれ会員の双肩にある。どのようなところにバックボーンをすえてゆくか。土橋教授の「発刊のこ」とば」と相まって、会員諸君の強い協力を期待してやまない。

（南波）

執筆者紹介

土橋 寛	………	本学教授
里井 陸 郎	………	本学教授
谷山 悦 子	………	昭和三十九年度卒業生
小森 啓 助	………	本学教授
八木 良 夫	………	昭和三十九年度大学院 (修士課程)修了生
安永 武 人	………	本学教授
松下 貞 三	………	本学助教

同志社国文学 創刊号

昭和四十一年三月十日 印刷
昭和四十一年三月十五日 発行

編集者 同志社大学国文学会
代 表 者 土 橋 寛

京都市上京区烏丸今出川
発行所 同志社大学国文学会

京都市上京区今小路通御前西入ル
印刷所 明文舎印刷株式会社